

# トラストトレインの 保守について

白井 昭

大井川鉄道では、トラストトレインを安全に運転するために、全般検査から日常検査までのいろいろな検査や保守、修理作業が続けられています。

近況の例として、C12164号蒸気機関車は、今年5～6月にかけて、ボイラーとロッドまわりの整備を含む大掛かりな検査を行いました。

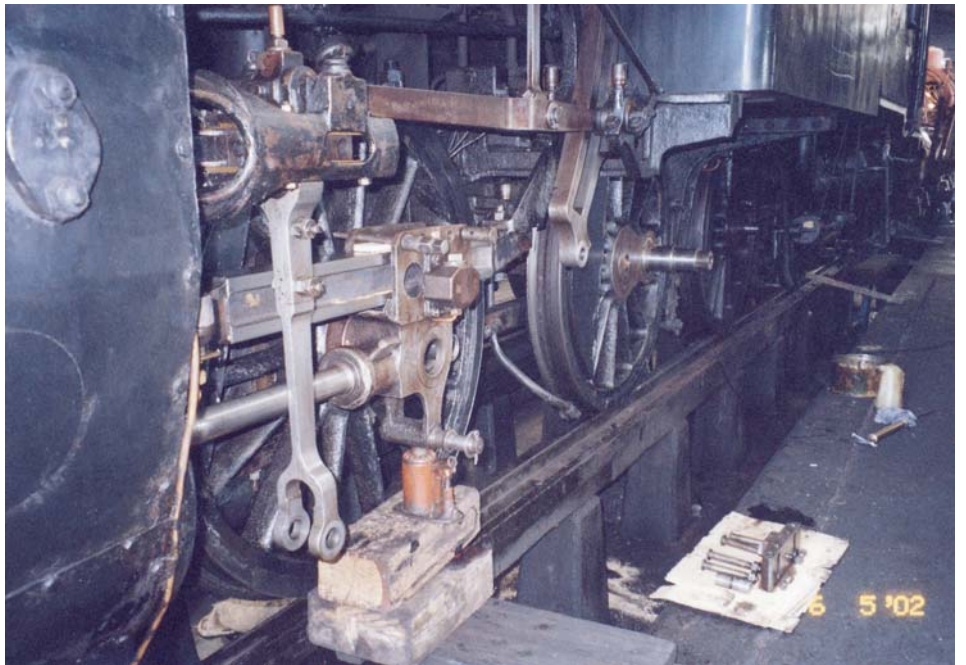
このほか、蒸気機関車、客車とも車軸の傷を調べる超音波探傷や車輪の検査、測定を定期的に行うほか、客車では新しく軸重の測定も始まりました。

客車は走行キロが少ないため問題があります。車体の痛みが早いこととバッテリーの充電も不利で、時々地上から充電、補液をする必要があります。

客車の電気は蒸気機関車の力により車軸発電でまかなうので、貴重な電力です。

スハフ433号は7月に雨樋の修理などをしました。しかし、客車の検査には家山から新金谷、再び家山へ回送が必要だが、電車ではできないため、電気機関車の臨時列車を走らせ、かつ、家山発車前に客車の検査を行うためなかなか大変なのです。

以上は、ほんの一部の紹介ですが、多くの保守、検査により、トラストトレインの安全が保たれています。また、これらの作業や測定の結果はすべて記録に残し、保存しています。



ロッドをおろしたC12164 H14.5.5



スハフ432のバッテリー充電 H14.4.20



スハフ432の車軸探傷 H14.6.6